

CEPA ってなんやねん (牛山克己)

日本では「セパ」と読まれることが多いですが、英語読みでは「シーパ」となります。とって大事なんだけど、なんだか説明がややこしい…そんな用語です。

「生物多様性の保全や持続的利用に理解と参加を求めるための、対話、教育、啓蒙などコミュニケーション全般」と言えば少しはわかりやすいでしょうか。もともとはラムサール条約において湿地の保全とワイズユースを達成するための手段として生まれた用語で、今では生物多様性条約や EAAFP においても取り入れられている考え方です。CEPA は communication, education, participation, awareness の略語ですが、ラムサール条約では C に capacity building が加わったり、生物多様性条約では connecting, change of behavior, empowerment, policy instrument, action などに関連する用語として加えたりしています。

CEPA の対象は、地域住民、ステークホルダー、政策立案者、科学者、企業、子どもたちなど広範にわたります。その手法も、マンツーマンの対話、ワークショップ、自然解説、環境教育、広報、ロビイング、パートナーシップの構築から協働取組など多岐にわたります。CEPA の目的は明確で、条約等で具体的な戦略も定められているのですが、対象が広範でなんでもあり的な所が CEPA をわかりにくくしてしまっているのかもしれない。

2021 年に誕生した「渡り鳥 CEPA ワーキンググループ」は、渡り性水鳥の重要飛来地における自然系施設職員、関連 NGO、研究者などによるネットワークです。You tube チャンネルを立ち上げてみたり、月一でオンランミーティングや勉強会を行ったり、Facebook グループをつくって情報交換をしたり…。まだ活動は迷走中(?) ですが、個性豊かな関係者のつながりを強化し、協力して渡り鳥と湿地の価値と魅力を発信し、各地の保全と活用の取り組みを後押しすることを目的としています。今後は様々な研究成果を飛来地の CEPA 活動に活用したり、各々の飛来地で集めているモニタリング結果を集めて解析をしたりなど、特に研究者と現場関係者の相互連携を強化できればと考えていますので、いいアイデアがあればお知らせください！また、Facebook グループに入ったり、勉強会に参加したり、みなさまのご参加をお待ちしています！

「渡り鳥 CEPA ワーキンググループ」のページ

<https://miyajimanuma.wixsite.com/anatidaetoolbox/cepawg-japan>